

# 2016 年度 事業報告書

NPO 法人ゆいツール開発<sup>ラ</sup>工<sup>ボ</sup>房

## 目次

1.	団体の設立趣旨	1
2.	団体の目的と主な事業	2
3.	団体の役員	2
4.	会計報告	2
5.	活動報告	4

## 1. 団体の設立趣旨

つながりあう社会へ

私たちは今、高度な効率化・情報化がすすんだ、便利な社会に暮らしています。

しかしその裏で、人と人の繋がりは薄れ、深い孤独感が蔓延し、地域コミュニティが崩壊するなど、社会の問題も深刻化しています。

世界では、これまで貧しいと言われていた国々が急激に発展し、豊かさを享受する人が増える一方で、開発による環境破壊、貧困格差、エネルギー・資源をめぐる問題など、多くの深刻な事態も表面化しています。

そんな中起きた東日本大震災と原発事故は、私たちにコミュニティの大切さとその危機を痛感させました。

今、こうした数多の問題を抱える社会を生きていくためには、多様な情報や選択肢から、自ら考え、選び、行動する力を一人一人が身につけることが肝要です。しかし過剰な情報や便利すぎる社会はその力を奪い、生きる力を弱めています。

ゆいツール開発工房<sup>ラボ</sup>の主メンバーは、環境省の体験的な学びの場づくりに6年以上携わってきました。その現場経験の中で、市民の手による課題解決の必要性和、コミュニケーションによる学び合いの可能性を見い出しました。

人と人の関わり合いや繋がりが、社会の中で損なわれつつある「絆」や「生きる力」「生きる知恵」を取り戻す鍵ではないかと考えます。

そこで、「NPO法人ゆいツール開発工房<sup>ラボ</sup>」を設立し、人と人の結びつきを生み出す道具やしくみ（ゆいツール）を開発することで、社会の中にコミュニケーションや学びの機会を増やし、地域でさまざまな人たちがともに学び合う基盤づくり、持続的に活動展開できる環境づくりなどをサポートし、持続可能でいきいきとした地域コミュニティづくりのお手伝いをしていきたいと思っています。

## 2. 団体の目的と主な事業

ゆいツール開発工房<sup>ラボ</sup>は、広く日本や世界の人々に対して、ESD（持続発展教育）プログラム開発をはじめとした教育活動事業等を行うことで、社会の中に世代や立場を越えたコミュニケーションや学び合いの機会を創出し、地域コミュニティの持つ課題（環境破壊、少子高齢化、地域文化の衰退など）の解決や、持続可能な社会構築に寄与することを目的とする。

- (1) ESD（持続発展教育）に関わるプログラム開発事業
- (2) ESD（持続発展教育）に関わる人材育成事業
- (3) ESD（持続発展教育）の社会展開のための事業
- (4) 教育活動、地域活性化事業等を行う他の団体との情報交換及びネットワークの構築事業

### 【過去の主な事業】

- ・インドネシア・ロンボク島における環境保全のための ESD プログラム開発・人材育成事業  
(2013年度～2015年度)
- ・インドネシア・スマトラ島の森林保全をテーマとした ESD プログラムの開発  
(2012年度～2015年度)

## 3. 団体の役員

ゆいツール開発工房<sup>ラボ</sup>は、以下の役員によって運営されている。

理事長	山本 かおり	
副理事長	小嵐 妙	一般社団法人地球温暖化防止全国ネット
理事	松原 裕子	有限会社イリュージョンミル代表取締役
理事	松原 雅裕	デジタルウムプロジェクト！主宰
理事	森 高一	森企画
監事	小山 庄三	

## 4. 会計報告（2017年5月現在案）

特定非営利活動法人ゆいツール開発工房<sup>ラボ</sup> 貸借対照表（2016年3月31日現在）

（単位：円）

（資産の部）		（負債の部）	
預金	107,476	前受金	79,672
未収金	616,460	借入金	300,000
前払費用	41,040		
		（正味財産の部）	
		一般正味財産	385,304
資産合計	764,976	負債・正味財産合計	764,976

2016年度 特定非営利活動に係る事業 活動計算書  
2016年4月1日から2017年3月31日まで

特定非営利活動法人ゆいツール開発工房(単位:円)

科 目	金 額		
I 経常収益			
1 会費・入金収入			
会費・入金収入			
会費収入(正会員)	90,000		
会費収入(賛助会員)	25,000	115,000	
2 事業収益			
①ESDに関わるプログラム開発事業	1,466,672		
②ESDに関わる人材育成事業	679,093		
③ESDの社会展開のための事業	348,407	2,494,172	
3 寄付金収入			
寄付金	24,000	24,000	
4 その他収益			
利息	7		
雑収入	0	7	
経常収益計			2,633,179
II 経常費用			
①ESDに関わるプログラム開発事業			
(1)人件費	437,363		
(2)その他経費	1,122,474	1,559,837	
②ESDに関わる人材育成事業			
(1)人件費	0		
(2)その他経費	679,093	679,093	
③ESDの社会展開のための事業			
(1)人件費	25,000		
(2)その他経費	254,133	279,133	
雑費	57,848	57,848	
経常費用計			2,575,911
当期経常利益額			57,268
<b>当期正味財産増減額</b>			<b>57,268</b>
前期繰越正味財産額			385,304
次期繰越正味財産額			442,572

特定非営利活動法人ゆいツール開発工房<sup>ラボ</sup> 貸借対照表(2017年3月31日現在)

(単位:円)

(資産の部)		(負債の部)	
預金	597,379	仮受金	164,807
未収金	10,000		
		(正味財産の部)	
		一般正味財産	442,572
資産合計	607,379	負債・正味財産合計	607,379

貸借対照表脚注

- ・未収金 10,000円は会費に関わるもので、4月3日に回収済みである。
- ・仮受金 164,807円は、②人材育成事業に関わるもの(使用しなかった助成金)で、5月2日に返金済である。

## 5. 活動報告

### (1) インドネシア・ロンボク島における村ツーリズム開発プログラム

～住民への環境教育、ごみ銀行の発展と若者の人材育成とともに～

公益信託地球環境日本基金と国際交流基金（アジア・市民交流助成プログラム）の助成を受けて、インドネシア・ロンボク島での活動を以下のとおり行った。（より詳しい報告については、別紙の地球環境日本基金報告書と国際交流基金報告書のとおり）

#### ① 村の若者へのワークショップ

##### 1回目（タナ・ヘア村）

2016年9月25日（日）  
12月のツアーに向けた準備「村にお客さんが来ることをどう思うか？」  
「どんな準備が必要か？」（20名程度参加）

##### 2回目（タナ・ヘア村）

2016年12月24日（土）25日（日）  
日本の学生たちと一緒に、「自己紹介、ツアー前に準備したこと」「ごみについて考えるプログラム体験」「ごみの調査」「村ツーリズムの発展のために」（15名程度参加）

##### 3回目（ランタン村）

2017年3月19日（日）  
1回目2回目の内容共有、ツアーの共有を踏まえて、次回のツアーのスケジュールを考える。（30名程度参加）

写真1



第1回 グループワーク

写真2



第2回（1日目） グループワーク後の共有

写真3



第2回（2日目） ごみの調査



第3回 グループワーク

#### 【コメント】

3回のワークショップを通して参加者は入れ替わり、場所も途中で移動したが、近くの村ということで大きな違和感はなかったのと、毎回前回のワークショップやツアーの内容共有などを行うことで、一貫性を保った。

村の若者は、村に観光客が滞在することが誇らしく、交流できたことに喜びを感じるとともに、村のごみ問題が村ツーリズムの発展の妨げになることを理解できた。

## ② ごみ銀行の活動を紹介する展示会の開催

【イベント名】 Lombok eco exhibition2

【日程】 2016年10月27日（木）、28日（金）、29日（土）

【場所】 ARUNA SENGIGI HOTEL

【主催】 NPO法人ゆいツール開発工房（ラボ）、NTBマンディリごみ銀行

【参加人数】 1日目 73人、2日目 67人、3日目 少数

【展示物】

- ウダヤナごみ銀行提供のクラフト類
- NTBマンディリごみ銀行提供のクラフト類
- The Gallery (Teoさん)提供の紙由来のテーブルや椅子など

【内容】

- 1日目
  - ・アイシャ氏からのあいさつと新ブックレットの紹介
  - ・ブックレットのスポンサーであるPLN（電力公社）やNewmontの関係者からの挨拶
  - ・ゆいツールからの挨拶（代表代理の東京農工大の学生より）  
（ゆいツールからのプレゼンは時間の関係で省略）
  - ・お披露目会終了後、参加者は食事をとり参加者同士の情報交換、展示物の見学等
- 2日目
  - ・ゆいツールの活動紹介（ウダヤナごみ銀行のティア氏より）
  - ・東京農工大学の学生より、ロンボクのごみ銀行についての調査研究の発表
  - ・発表後、参加者は情報交換をしたり展示物を見学したりした。
- 3日目
  - ・展示を行ったが、雨が降ったため来場者は少なかった。

写真5



展示物

写真6



展示会参加者（青いシャツ、タナ・ベア村のトニー氏）

写真7



展示物を見る外国人客

写真8



参加者と集合写真

【コメント】

NTBマンディリごみ銀行との共同開催、ウダヤナごみ銀行に準備・運営を任せて、当日は東京農工大の学生にゆいツールの代理を任せての開催となったために、ゆいツールの存在を上手にアピールすることができなかった（特に1日目）。次年度は、ごみ銀行同士の情報交換や村ツーリズム開発の成果を発表することを目的とした展示会をゆいツールのみで主催したい。

タナ・ベア村のツアー受け入れ団体のトニー氏が、展示会に参加したことで刺激を受けて、タナ・ベア村にごみ銀行を作るきっかけとなった。（⇒BCごみ銀行）

ゆいツール代理として参加した東京農工大の学生は、研究成果を発表するよい機会になった。

③ 学生向けエコツアーの実施

【日程】 2016年12月21日（水）～30日（金）

【参加者】 学生4名（内一名中国籍）、社会人1名

【スケジュール】（8泊10日）

日にち	内容
12月21日(水)	羽田空港集合、ジャカルタへ 乗り換えてロンボク島へ
12月22日(木)	市場見学、「ごみ銀行ってなんだろう？」（マタラム市周辺）
12月23日(金)	タナ・ベア村で伝統菓子づくり体験、英語教室への参加、 <b>村の若者と交流</b> など。村に宿泊
12月24日(土)	クラフトづくり体験、ドラゴンフルーツ狩り、 <b>ワークショップ参加（自己紹介、村のいいところ、気になるところなど）</b> 、村に宿泊
12月25日(日)	ごみの調査、 <b>ワークショップ参加（村ツーリズムを発展させるためにできること）</b>
12月26日(月)	ヒンドゥーの寺院（公園）散策、ギリ・メノ島へ インドネシア料理づくり体験（バンガローに宿泊）
12月27日(火)	シュノーケリング体験、 <b>ギリ・トラワンガン島のごみ埋立て地見学</b>
12月28日(水)	<b>NTB マンディリごみ銀行の見学</b> 、リサンごみ銀行職人さんのお宅で意見交換、ロンボクの工芸品などのお土産探し
12月29日(木)	織物の里でお土産探し、ロンボク島からジャカルタ、羽田空港へ

写真 9



ウダヤナごみ銀行訪問

写真 10



ドラゴンフルーツ狩り



写真 11



ギリ・トラワンガン島のごみ埋め立て地見学

写真 12



NTB マンディリごみ銀行で

### 【コメント】

日本の若者はツアー中、ロンボクの村に3日間滞在し、村の若者や女性たちとさまざまな活動を行う中で、インドネシアの村の暮らしやイスラム教について触れつつ、ごみ問題についても考えを深めた。また、いくつかのごみ銀行を訪れ活動の様子を見たり、観光地のごみの様子を知ったりした上で、自分たちの国のごみ処理システムの在り方を今一度振り返った。

参加者は、自分が興味を持ったテーマでレポートを作成した。（別紙）

日本語勉強中の現地の若者が、日本の若者に付き添い勉強を兼ねて通訳をした。

### ④ タナ・ベア村のごみ銀行への支援

タナ・ベア村でエコツアーを受け入れてくれた英語教室（Bright Course:BC）のトニー氏が、10月の展示会に参加後立ち上げた、BCごみ銀行サポートを以下のとおり行った。

- 支援金の提供（ごみ銀行の最初の運転資金として）2,000,000ルピア（17,600円）
- 物品購入（プラスチックごみを洗浄・乾燥するために必要な資材）
- 講習会の実施（タナ・ベア村で複数回）
- 商品の買い上げ（BCごみ銀行の商品⇒ギリ・メノ島のDiana Caféのショップへ）

### ⑤ 村ツーリズム候補地の視察

ロンボクのいくつかの村の視察をした。

将来的に村ツーリズムを試していければよいと考えている。

### ⑥ 東京でのイベント出展（4月、10月）

#### ●アースディ東京2016

【日程】2016年4月23日（土）10:00～17:00、24日（日）10:00～17:00

【場所】代々木公園（東京都渋谷区）

【来場者数（会場全体）】 延べ11万人（土曜 6万人、日曜 5万人）

【出展内容】

- ・ロンボク島での活動紹介パネル、スマトラ島での活動紹介パネル
- ・「ごみについて考えるプログラム」「熱帯林の生物多様性を考える」ツールの紹介
- ・ごみ銀行で製作したクラフト類（一部販売も）

●グローバルフェスタ2016

【日程】2016年10月1日（土）、2日（日）10:00～17:00

【場所】お台場 センタープロムナード（東京都江東区）

【来場者数（会場全体）】約10万人

【出展内容】（アースディ東京2016とほぼ同じ）

●アースディ東京2017（ブース出展料のみ2016年度中に支払った）

【日程】2017年4月22日（土）10:00～17:00、23日（日）10:00～17:00

【場所】代々木公園（東京都渋谷区）

【来場者数（会場全体）】延べ12万人

【出展内容】（グローバルフェスタ2016とほぼ同じ）

写真 13



アースディ東京 2016

写真 14



アースディ東京 2016

写真 15



グローバルフェスタ 2016

写真 16



グローバルフェスタ 2016

写真 17



アースディ東京 2017

写真 18



アースディ東京 2017

⑦ 学生向けエコツアーの報告会開催（3月）

【日程】2017年3月4日（土）14:10～16:10

【場所】Under the Tree Nakameguro（東京都目黒区東山）

【参加者数】22人（関係者含む）

【発表者】若松幸秀（神戸大学大学院）、長澤美佳（社会人）

【内容】

1. あいさつ、ゆいツールについて
2. ロンボク島ってどんなところ？、エコツアーの概要
3. 発表1「ロンボクの文化、人の暮らし」
4. プログラム体験「ごみってなあに？」  
～ブレイク、交流～
5. 発表2「現地のゴミの様子、ごみ銀行のことなど」
6. 今までのほかのツアーの様子
7. グループで感想
8. 村ツーリズムの発展とごみ問題の解決について
9. 終わりに

写真 19



発表者（若松さん）

写真 20



プログラム体験

写真 21



発表者（長澤さん）

写真 22



グループで感想を共有

【コメント】

発表者ふたりは、ツアーで学んだこと・感じたこと・得たもの・考えたことなどについて、自分の言葉でわかりやすく写真とともに説明してくれ、参加者も満足した。

ツアー参加者（学生）の友人が、ひとりもイベントに参加してくれなかった。大学が東京でない学生がふたりいたので難しい面もあったが、次回はなんらかの対策をとりたい。

## （2）明治学院大学での講義

- 依頼元：一般社団法人地球・人間環境フォーラム（天野さん）
- 日時：2016年7月14日（木）16:45～18:15（内1時間）
- 場所：明治学院大学白金キャンパス
- 対象：法学部3、4年生 191名 「世界の環境を考える」という講義の1コマ
- 内容：

1. はじめに（25分）  
私自身のこと、インドネシアで活動することになったきっかけ
2. インドネシアのごみ事情、活動のはじまり（5分）  
～クイズタイム～
3. ロンボク島での活動紹介（20分）
  - ・プログラムツールの開発
  - ・ごみ銀行立ち上げ
  - ・廃品を利用したクラフトづくり講習会
  - ・エコツアー開発、訪問者の受け入れ
  - ・学生の受け入れ、現地の若者の育成
4. これからやりたいこと（5分）
5. リアクションペーパー「一番興味深かったこと」

### ○考察：

- ・海外に行くことに興味があるかどうかたずねると、ほとんどの学生は手を挙げなかった。
- ・進路について考えている時期だろうと思ったので、いきなり現地の話をするのではなく「NPOで働いている人はどんな人なのか？どうしてそんなことをしているのか？」興味を持ってもらうために前半で自己紹介を長くとした。自分自身が大学生の時に考えていたこと、社会人になってから、仕事を辞めて専門学校に入ったこと、ストップおんだん館で働いた後、NPOを立ち上げたことなどを話した。やりたいことを追求する姿勢に感銘を持った学生が何人かいた。
- ・リアクションペーパーの集計より。興味を持ったことで一番多かったのは「ごみ銀行の仕組みや商品について」だった（約半数の学生が興味を持った）。続いて「インドネシアのごみの状況や日本と比較した感想など」と「前半の自己紹介の部分」が2割の学生が興味を持った。海外でのエコツアーやボランティア活動に興味を持った学生は1割弱であった。
- ・講義のあと、一人の学生が連絡をくれた。彼女は9月に自費でエコツアーに参加し、12月のツアーにも参加した。

写真 23



講義の様子

写真 24



学生たちの様子

**(3) ロンボク島エコツアーの受け入れ**

ロンボク島でのゆいツールの活動を紹介したり、村の暮らしに触れロンボク島の魅力に気づいたりするエコツアーを開催した。9月のツアーより体験した項目ごとに満足度を訪ねるアンケートをとるようにした。

日程	参加人数	ツアー内容	特記事項
2016年4月 18日(月) ～23日(土) <b>5泊7日</b>	3名 (社会人 女性3名)	ロンボク島まるごと体験エコツアー(市場見学、トレッキング、村でお菓子作り体験、ヒンドゥー寺院見学、織物の里・焼き物の里でお土産選びなど)	ゆいツール現地スタッフ(運転手&ガイドと日本語ガイド2名)が対応した。
2016年5月 12日(木) ～17日(火) <b>5泊7日</b>	1名(20 代男性)	ロンボク島とっておきエコツアー(海でシュノーケリング、村を散策、ごみ銀行の活動見学、ヒンドゥー寺院見学など)	ゆいツールのボランティア(吉本さん)と現地ボランティア(ラフマン、ジャミ)なども一部参加しながらツアーを行った。
2016年9月 12日(月) ～9月19日 (月) <b>6泊8日</b>	2名(明治 学院大 3 年生、東京 農工大 4 年)	学生向けエコツアー(ごみ銀行の見学、タナ・ベア村でお菓子作り体験や里山トレッキング、ギリ・メノ島でインドネシア料理づくり体験やシュノーケリング体験、織物の里でお土産選びなど)	このエコツアーは、12月のエコツアーのプレ実施となり、準備の上でも非常に好都合だった。ちょうどロンボクでごみ銀行を調査中の学生がいたので、一緒にツアーに参加してもらった。

写真 25



4月のツアー

写真 26



5月のツアー

写真 27



9月のツアー

写真 28



9月のツアー

#### （４） 高校生向け講座

○日時/テーマ：第1回 2016年7月28日（木）14：00～16：00「エコツアーってなんだ？」

第2回 2016年8月4日（木）14：00～16：00「有名観光地でのエコツアーの可能性」

○場所：東京ウィメンズプラザフリースペース（東京都渋谷区）

○参加者：筑波大付属坂戸高校3年 Oさん

（2015年12月にロンボクを訪れ、ゆいツールコーディネートのエコツアーに参加済）

○考察：

・6月にOさんよりエコツアーについて質問をもらい、せっかくなので講座という形で一緒に勉強をすることにした。1回目は、ゆいツールボランティアのKさんも参加した。

・1回目では「どうしてエコツアーに興味を持ったのか？」「ロンボクでどんなところがエコツアーだと思ったか？」話を聞いた後、「エコツアー、エコツーリズムの定義」を学んだ。そして、山本がスマトラやロンボクで行ってきたエコツアーについて話をしたり、スマトラのエコツアーに参加したボランティアのKさんの話も聞いてもらったりした。

・2回目では、ゆいツールがロンボクの活動で開発した「ごみについて考えるプログラム」を体験してもらった後、Oさんの要望で京都などの有名観光地でのエコツアーの可能性について議論をした。Oさんは、外国人がごみを捨てるなどの問題が増えてきている中、観光に行く前に環境教育を行うなど、なにか観光地でエコツアーが行えないか、という意見を持っていた。

写真 29



1回目の講座の様子

写真 30



2回目の講座の様子

#### （５） 学生への支援

ゆいツールは、9月のロンボクの活動中、現地で2か月間ごみ銀行の調査を希望していた東京農工大の学生（4年生1名）のサポートを行った。

##### 【サポート内容】

- ・マタラム市清掃局、NTB州環境局、中部ロンボク環境局などへのヒヤリングのアポ取り、同行
- ・9月10月の滞在先の検討、連絡調整
- ・いくつかのごみ銀行への調査・ヒヤリングの依頼など
- ・その他、ゆいツールの活動へ同行しての学びのサポート

NPO 法人ゆいツール開発工房

〒155-0032

東京都世田谷区代沢 2-19-12

メールアドレス: [yuitool@gmail.com](mailto:yuitool@gmail.com)

ホームページ: <http://yui-tool.jimdo.com/>

ゆいツールブログ:

<http://blog.goo.ne.jp/yui-tool>

連絡先: 090-4420-6867(代表携帯)